

ジャパンモビリティショー2023 アイシンプレスカンファレンス

取締役社長：吉田 守孝

みなさん、おはようございます。アイシンの吉田です。

本日はお忙しい中、アイシンのプレスカンファレンスにご来場いただき、誠にありがとうございます。

さて、ジャパンモビリティショー2日目がスタートしました。今回のショーはご存じのとおり、「クルマからモビリティへ」、「東京からジャパンへ」、自動車に留まらないモビリティ、そして“移動”の未来をみんなで作っていかう、という想いで4年ぶりに開催されています。このモビリティショーへの想いは、アイシンの経営理念である「“移動”に感動を、未来に笑顔を。」と重なるものだと思います。

私たちアイシンはクルマの移動を支える多くの製品やサービスを開発、そして世界中で生産し、お客様にお届けしています。世界をリードしてきたオートマチックトランスミッションやハイブリッドシステム、パワースライドドアなどの安全で快適な車体製品、クルマの走りを支えるシャシー、電動化で益々ニーズが高まる制御ブレーキや地図データサービスなどで、クルマの基本である「走る・曲がる・止まる」の性能を支えてきました。

そしてこれらの製品をクルマに仕立ててアイシンのテストコースで走り、ドライバー目線で仕上げています。私は、アイシンはクルマづくりを最もよく知る自動車部品メーカーだと思っており、それがアイシンの強みです。

さて自動車業界は、100年に一度の大変革期を迎えており、CASE化を通じて自動車のコア技術や価値、事業は大きく変わり、モビリティ産業へと変革しつつあります。

人・モノの移動に加え、豊かな移動空間や時間の実現、社会課題の解決など、これまでの枠組みを超えた価値の創造が期待されており、本日は、このような変化を踏まえ、アイシンが考える“移動”の未来について3つの観点でお話をしたいと思います。

一つ目は「電動化」でかわるクルマづくり。

まず、モビリティ社会の中核となるクルマが、バッテリーEV、BEV化をはじめとする「電動化」により大きく変わりつつあります。アイシンはこの変化に対し、グループをあげ、将来に向かって「電動化」、「知能化」へ事業シフトを加速しています。

そして電動化の中でもBEVはもっとも成長し、競争が激化する市場です。BEVはエンジンが電池にかわるだけでなく、クルマ全体が大きく変わります。

アイシンは、eAxleを始め、熱マネジメントシステム、アルミ電池骨格、ギガキャスト、回生協調ブレーキや空力デバイスなど、クルマ全体に渡る多くの電動化製品を取り揃えています。これらの小型・軽量化、高効率化をすすめるとともに、システムを統合制御することにより、BEVの航続性能、走りの楽しさや安全性を一段と向上させます。

特に、BEV化の中核となるeAxleは、小型・集積化の技術でさらなる進化に向けた開発を進めています。モーター、ギア、インバーターを一つに統合した3in1の構成に、熱マネジメントシステム、電力変換器などの機能を加える「Xin1」の新型eAxleを2027年の市場投入をめざして開発中です。パートナーとの協業により、これまでに無いスピードで試作品が完成しており、現在、すでに実車での評価を進めています。

2つ目は「知能化」による移動の感動を、すべての人に。

自動車ユーザーは、それぞれが違う個性を持ち、価値観も異なります。モビリティ自身が「知能化」によりその違いを認識し、道路、社会、環境に「つながる」ことで一人ひとりに合った“移動”を提案してくれるとしたら、その感動は新たなモビリティ社会の価値になるのではないのでしょうか。

アイシンはドア開閉システムを広くラインアップしており、自動駐車・低速自動運転で培ったセンシング技術も持っています。これらを統合し、乗り込む人のスムーズな乗降をサポートする「ストレスフリーエントリー」や、車内にいる人の状態をセンサーで見守る「車室内の見守りシステム」など、年齢、性別、ハンディキャップの有無に関わらない、その人に合わせた安心・快適な移動が提案できます。今後、これらをコネクテッド技術と組み合わせ高度化することで、位置情報や乗っている人の状態に基づき、その状況に合ったサービスで皆さまに“移動”の感動をお届けしたいと考えています。

3つ目は 様々な移動の価値で、暮らしを豊かに。

私たちがモビリティ社会に提供する価値は、クルマの機能だけに留まらず、社会課題の解決にもつながっています。例えばアイシンの乗合送迎サービス「チョイソコ」は、過疎地などの交通が不便な地域でラストワンマイルの“移動”をより便利にすることに加え、様々なイベント企画と組み合わせることで、免許を返納した高齢者の“外出したい”という気持ちを高めることができます。今年度中には76もの自治体に採用が拡大する予定です。

また、モノを運ぶ時も、人の手に渡る直前のラストワンマイルの“移動”が大切です。今回東京フューチャーツアーで出展しているフードデリバリーロボット「ピーボ」には、センサーで傾きを検知し、運搬部分の動きを制御することで、「大切なモノを優しく運ぶことがで

きる」技術が採用されています。

これらの技術やサービスは私たちの暮らしを便利で豊かにするだけでなく、高齢化や人手不足などの社会課題の解決にも貢献し、人とモビリティの持続的な共存・共生につながっていきます。

ここまで、アイシンが考える移動の未来とモビリティの姿についてお話してきましたが、その大前提となるのは、この地球が豊かで、美しくあり続けること。これは今、地球上に生きる私たちが考えなければならない最も重要なテーマです。これから、自動車産業に関わる我々は、モビリティのライフサイクルで排出される CO2 を削減し、バリューチェーン全体でカーボンニュートラルを実現する必要があります。

アイシンは、次世代太陽電池「ペロブスカイト」での再生可能エネルギーの実用化や、工場での CO2 分離回収や再利用、自然由来の新しい燃料である「バイオ成型炭」の開発、家庭用燃料電池「エネファーム」による都市のエネルギーマネジメントへの貢献など、カーボンニュートラル実現に向けた取り組みを今後さらに加速し、「美しい地球を守るために」常に考え、行動していきます。

最後に、約数万年前に原生人類がアフリカから世界各地に大移動したように、私は、“移動”は人間の本能的な欲求だと思っています。クルマに対する価値は時代や技術革新と共に変化していきますが、“移動”を求める人の好奇心は変わりません。

だから、人はクルマに「愛」をつけて「愛車」と呼ぶのだと思います。私は、クルマが大好きで、自動車事業に長年関わってきましたが、クルマは今後もコモディティ化しないと思います。クルマは、見て楽しい、操って楽しい、所有して楽しいもの。そういったクルマが持つ楽しさをさらに進化させながら、私たちアイシンは心をも動かすあらゆる“移動”体験により、これからのモビリティ社会に感動をお届けし、世界中の皆さまに笑顔になっていただきたいと思っています。

今回アイシンブースでは「美しい地球を守るために。」をテーマとして、アイシンが描く未来を体感できるシアターや未来のエンジニアとのステージショーなど、様々な体感型コンテンツを用意しています。ぜひアイシンブースで“移動”の未来を体感していただき、一緒にこのモビリティショーを楽しみましょう。

本日は、ありがとうございました。